

## ⑱ 笠森寺自然林と権現の森 関東ふれあいの道を歩く

【概要】笠森（長南）権現（長柄・六地蔵）地区は、約 300 万年前の上総丘陵隆起の北部先端部に位置し、その後の氷河期に北部から冷温帯植物や南部から山地性植物が展開、そして 1 万年前の急激な温暖化や縄文海進時には多くの照葉樹林が繁茂していた。その後の寒期で海が引き、海岸での沖積もあり現在の地形になった。照葉樹の主木ヤブツバキの後退、耐寒性のスダジイの優占、中間温帯樹林といわれるモミ・ツガ林、ケヤキ・ムクノキ林が残っている。

### 【森林の特徴と見所】

784 年（明暦 3）に最澄上人が楠の霊木で十一面観音菩薩を刻み、山上に安置し開基され、1028 年（長元元年）後一条天皇の勅願により観音堂が建立されたが、周辺に広がる暖帯性常緑広葉樹林は古くから禁伐林とされた。1970 年（昭和 45）に県内唯一の天然記念物の森林に指定され、北方系と南方系の樹種が混交した自然度の高い森林。

### 【植生】

最も樹高が高いスギ（推定樹齢 600 年以上）、古木の多さは、県内で例を見ないクスノキ、中間温帯を構成するモミ、暖温帯照葉樹林の代表樹種であるイチイガシの大木、古木だが樹勢の衰えているウワミズザクラ、観音堂の横に大木のクスノキ・クロガネモチなどが見られる。ヤブコウジ、イズセンリョウなども見られ、ヤブコウジ・スダジイ群集とのマクロ的な境界付近に当たる。各種の菩提樹（インドボダイジュ、シナノキ、モクゲンジなど）が観音堂付近に植栽されている。展望台からは自然林全体が俯瞰できる。

### 【歴史文化】

笠森観音堂：観音堂は日本唯一の「四方懸造」で、1908 年（明治 41）に国宝、1950 年（昭和 25）国指定重要文化財となっている。ご本尊の十一面観音菩薩と観音堂の柱はクスノキ製。また「坂東三十三観音札所」の第三十一札所として巡礼の霊場となっている。



「懸造（かけづくり）」とは、急な斜面や段差のある場所に建物を建てる場合に、その床面を水平に保つため床束（ゆかづか）の長さを調整して、床の高さを揃える工法のこと。我が国独特の建築様式として清水寺が有名だが、笠森のははじめから岩山の頂上に建立され、周りを 61 本の束柱で支えた床高 16m で、四方懸造といわれる特異な形態。

芭蕉句碑：芭蕉が 1681～1683（天和）の時代に観音堂の上で詠んだと言われる句碑がある。元禄時代の芭蕉が俳聖としてあがめられるようになると、全国各地に句碑が建立されるようになり、1777 年（安永 6）に上総国で建立された最古のものが、この句碑。笠森村出身の俳僧・故貝は晩年笠森に草庵を結び、江戸の俳諧仲間などの協力を得て建立した。

子授楠と三本杉：上記句碑の近くに、根本の穴をくぐると子が授かるというクスノキと三本杉の高木がある。

【コース紹介】

ここでは駐車場から展望台に向かい、全体を俯瞰した後、観音堂付近へ至るコースを紹介する。駐車場①を出て、左手に道を取り弁天谷池へ向かう。池の周囲の木道は現在一部が危険のため、一周できないので、観察舎②で折り返し、尾根道③を上がる。急登後展望台④から全体を俯瞰するが、周りの樹木の生長により、年々眺望が悪くなっている。四阿のある広場を進むと観音堂⑤の下に出る。観音堂をお参り（有料）し回廊を一周した後、右手の道を少し下った所⑥でイチイガシの大木やシダ類を観察する。山門から少し下ると芭蕉の句碑⑦、子授楠そして三本杉⑧を見て駐車場①へ戻る。



観音堂↑ 展望台↓



笠森自然林の説明板



弁天谷池



三本杉

コースで見られる主な植物等

スギ、スダジイ、コナラ、アラカシ、イチイガシ、アカガシ、ウラジログシ、クヌギ、ウワミズザクラ、ヤマザクラ、クスノキ、クロガネモチ、インドボダイジュ、シナノキ、モクゲンジ、イズセンリョウ、ツルコウジ、コウヤボウキ、キッコウハグマ、タイアザミ、ハダカホウズキ、ホソバカナワラビ、コバノカナワラビ、ヘラシダ、ホシダ、リョウメンシダ、コモチシダ、ホラシノブ

野外講座企画のための情報

FS 指数： 水平距離： m 登高 m

トイレ： 駐車場、境内

昼食場所候補： 展望台下の広場

安全確保上の留意点： 弁天谷池から尾根道の上り

近隣の見所： 権現の森と組み合わせると良い